

防災・減災対策

大地震や風水害そしてコロナ感染症対策など、災害から市民の命と暮らしを守るために対策の底上げは、最も力を入れて取り組んできた分野の一つ。

災害拠点病院の建替え、透析患者の災害時の医療確

政策5. 行財政改革と効率的・効果的な行政運営

道路建設事業団の早期清算

市民の負担を大幅に削減

横浜市道路建設事業団は、都市計画道路の整備を行い、道路関連事業を推進することを目的として設立。

望月が議員になった2011年当時、見込みより膨れ上がった道路建設費用の清算のため、2032年頃まで存続させる予定だった同事業団。

①負債の早期償還、②借り換えなどによる金利減額、③事務所移転による経費節減、その他のあらゆる市民の負担軽減策の実行を議会で求める(2011年10月、2013年2月)。

結果、2022年度で清算終了。**当初予定の返済総額より約130億円少なく済んだ**とのこと。

横浜市財政ビジョン策定

『財政状況がより一層厳しさを増すことが見込まれる中、"財政を土台"に、持続可能な市政が進められるよう、中長期の財政方針として「横浜市の持続的な発

保の促進、市内建築物、特に不特定多数が利用する建築物の耐震化の促進、水道施設の耐震化や降灰対策の実施を議会質問などで求め、着実に改善されています。



展に向けた財政ビジョン』(市HPより要旨抜粋)が、2022年6月に策定されました。

あれかこれかの選択、将来世代のことを考えた行財政運営は、まさに望月が一貫して求めてきたこと。政策、施策、事業の仕分けを実行し、非効率でムダやムリのある予算は、組み替えを求めます。

真に支援を必要とする人に目配りした予算、将来の横浜の成長につながる予算編成とその実行を引き続き求めていきます。

データ活用による効果的な施策や事業の立案と実行

データやエビデンス(合理的な根拠)に基づく施策や事業の立案とその実行の流れができつつあります。くわえて行政のオンライン化や簡素化、さらにはDX戦略が進展中。

時代に求められる手法を取り入れ、より効果的で効率的な市政運営、市民にとって便利で役立つ市役所(区役所)を推進。

その際は、デジタル化にじみがない市民が困ることなく、また数値化できない**果たすべき政治の役目を忘れずに!**

望月こうとく政務活動事務所

〒224-0003
都筑区中川中央 1-24-17-201

【当レポート発行者プロフィール】

横浜市会議員(都筑区選出) 望月高徳(もちづきこうとく) 2011年4月初当選。現在3期目。立憲民主党横浜市会議員団所属。政治を志した原点は、学生時代の新聞奨学生体験。政治信条は、公正・共生・寛容。

公式
サイト



MAIL info@khotoku.net
TEL/FAX 045-532-9089
URL http://www.khotoku.net/

メールか電話で
ご連絡ください。

もちづき 望月こうとく

市政レポート

みんなの声の広場 第48号 特別号

http://www.khotoku.net/
TEL: 045-532-9089 E-mail: info@khotoku.net



2023年3月10日
発行



数々の提案が実現さらに良い未来へ!

2019年4月に現任期は始まりました。市民に実現を約束し大きく前進したこと、具体化されるメドが立ったものが数多くあります。

1期目から取り組み続けた結果、今期に大きく実を結んだものもあります。

今期の主な議会内の役職歴

2019年度(令和元年度)

- ◆国際・経済・港湾委員会委員長
- ◆市会運営委員会理事

2020年度(令和2年度)

- ◆市会運営委員会副委員長
- ◆決算第二特別委員会委員長(第3回定例会)
- ◆会派副団長

2021年度(令和3年度)

- ◆健康福祉・医療委員会副委員長

2022年度(令和4年度)

- ◆市民・文化観光・消防委員会副委員長
- ◆決算第二特別委員会委員長(第3回定例会)

望月が掲げていた (2019年4月選挙公報より抜粋) 施策5選の成果をご報告

施策1. 子育て支援・働く世代応援施策

(次代を担う人への投資、子育て世代包括支援の推進、中学校給食Yesほか)

施策2. カジノNO!

施策3. 高齢化社会に求められる施策の推進

(地域交通の確保ほか)

施策4. 安心・安全で、住み続けたい都筑区

(防災・減災対策の強化、港北ニュータウンの街づくりほか)

施策5. 行財政改革と効率的・効果的な行政運営

(不要な事業の見直しの徹底による行政コスト削減、データ活用ほか)

詳しくは中面でご報告

施策 1. 子育て支援・働く世代応援施策

『子育てしたいまち 次世代と共に
育むまち ヨコハマ』が中期計画の基本戦略に

望月は、「子育て支援・働く世代応援施策」の充実、「子育て世代包括支援の推進」や「次代を担う人への投資」を約束。小児医療費助成の拡充は、議員1期目から目指してきました。

そして山中市長には、**“横浜版の総合的な少子化対策”**の実施を求めています。



市長に着実な中期計画の実施を求める

2022年12月に議決された「中期計画2022-2025」で、望月が求める市政の方向に重なる**『子育てしたいまち 次世代と共に育むまち ヨコハマ』**が基本戦略に位置付けられました。中学3年生までの小児医療費の無償化は、本年8月に実現する見込みです。

施策 2. カジノNO!

市民とともに新市長を誕生させ、
カジノIR誘致を撤回させる

【望月のカジノIR誘致問題への主な取り組み】

- 2014年
・市政レポートでカジノIR誘致問題を区民に伝える。
・議会で、この問題を取り上げ、「**推進すべきか否かの判断に市民意見を取り入れるべき**」と主張。以降、機会あるごとに取り上げる。
・所属していた会派の政調会長として「カジノに頼らず山下ふ頭の活用を図る(カジノ反対)」旨の市長への予算要望をまとめる。
2019年8月
・林(前)市長が誘致表明。

ラジオ日本で“人の誘致”策を語る

2019年5月、ラジオ日本『清水勝利のこれでいいのかニッポン!!Part2』の「地方の反乱」コーナーに出演。ヨコハマへの“人の誘致”策の実現を語る。

それは決して単に観光誘致などの話ではなく、「人が住みたい街、事業者が事業を行いたい街にしていくこと。本市の都市としての魅力を総合的にアップさせる構想」。

生徒全員による中学校給食は、2026年度より

原則生徒全員の喫食とする中学校給食は、2026年度より実現の見込み。議員になった当時、中学校給食実施を求めていた区選出議員は、望月だけ。

今後は、完全実施に向け提供内容その他、改善すべき点を改善させ、**満足のいく給食の提供**を目指します。

今後求めていくこと

- ①出産、育児、教育、働くこと、更には介護を必要とする高齢者や障がい児者がいるご家庭への支援を、包括的で一貫したものとする。
- ②バラマキ、ツギハギ施策とならないよう、現時点の支援施策全体を再評価、再構築し、ムダムリのない持続的な支援とする。
- ③子育て世代・働く世代への支援の充実によって、市の収入のアップ、賑わいを促し、その恩恵をすべての世代に還元する。

2020年3月
予算総合審査で誘致の不適切性、不当性を追及。

2021年1月
・「カジノを含むIRの是非を問う住民投票条例」の制定を求める

**193,193筆の直接請求者の
思いを代弁し、本会議場で住
民投票賛成の立場で、会派を
代表し討論。**

2021年3月
カジノIR誘致関連費を含む新年度予算の修正動議を、会派を代表し提出。

8月
・市長選挙で、山中氏を立憲民主党市議団として擁立。⇒**新市長誕生**
9月
・山中新市長が本会議場で**カジノIR誘致撤回を宣言!**



住民投票実施を求める 193,193 名の市民の思いを代弁

新たな劇場整備計画 新市長誕生で検討中止

前市長が建設検討に前のめりだった新たな劇場整備計画。この問題を議会で何度か取り上げる(2018年5月、2019年2月、2020年3月)。

2021年8月の市長選挙を経て、山中市長誕生により**「新たな劇場整備」検討は、中止。**

動しやすい地域交通を実現するために全庁を挙げてしっかりと取り組む」旨の市長答弁を得る。

2022年9月には、『持続可能な地域の総合的な移動サービスの確保』の実現に向け、副市長をリーダーとした関係局からなるタスクフォース(市発表文より抜粋)を新たに設置。

一足飛びにはいかず、市内一律で解決策の見出せる課題ではありませんが、**生活に必要な地域交通の確保に引き続き取り組みます。**

施策 3. 高齢化社会に求められる

政策の推進

地域交通の確保

一歩一步改善させる

高齢化時代において都筑区でも、バス便の減少などを要因とする地域交通の問題は、解決すべき課題の一つ。課題解決に向け本腰を入れた当局の取り組みを求めてきました(2019年2月予算関連質疑)。

「地域交通の確保は、生活に必要不可欠。誰もが移

施策 4. 安心・安全で、
政策の推進

勝田小学校及び同小学校
コミュニティーハウス建て替え工事本格化

子どもたちにとって、安全でよい教育環境のために

校舎が古く、防災上・防犯上建物構造に課題があると判断し、早期建て替えを教育委員会に求め、建て替えが決定。

港北ニュータウンの理念を生かしつつ、
さらなる都筑区の発展を目指す

まずは必要な街のメインテナンスを施しながら

昨年12月9日の山中市長に対する一般質問も含め、議員1期目から過去4度にわたって“港北ニュータウンの理念を生かした街づくり”について本会議場で質疑。

まずは、①ニュータウンの理念を生かしつつ、街づくりを進め。そしてニュータウン地域だけでなく②都筑全体の視点で地区ごと、地域ごとの実情に合った土地活用を図る。③地域住民のお声をお聞きしながら街のあり方を決める。

以上のこと前提として、**少子高齢化時代を見据**

え、的確な区内の土地利用や用途地域の在り方検討を求めてきました(2019年2月予算関連質疑)。

そしてもう一つ。傷みが目立つ舗道(歩道)や手入れが行き届いていない街路樹など、公共空間のメインテナンスの課題です。

改善に向けて、当局に対してここ数年来、適切な対応を強く求めてきました。その結果、センター北駅前の芝生広場周辺では、再整備工事が始まっています。

求めてきた土地活用も進み出しています。必要な街のメインテナンスを施しながら、いっそう住みやすく魅力と賑わいがある街づくり、そして都筑区の発展を目指しています。



建て替え工事が進む勝田小学校
(本年2月中旬撮影)